

人間社会環境研究科 人文学専攻
【授与する学位】修士（学術）

大学（大学院）の目的
金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
人間社会環境研究科は、人間社会環境における諸問題に関して高度な教育研究を行い、この領域における国際水準の教育研究拠点として、現代的課題に対応できる独創性豊かな知的人材を養成することを目的とする。博士前期課程は、博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門的実務能力を備えた高度専門職業人並びに深い知識と学際的な興味を持って企業・自治体、地域社会等に貢献する人材を養成することを目的とする。人文学専攻は、人文学領域において博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門的実務能力を備えた高度専門職業人を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学受入れに関する基本的考え方（前文）】
人文学専攻は、人間科学、歴史学、言語・文学、文化資源学の各領域の専門知識を深め、領域を横断した複眼的視野を持ち、新しい問題の発見と解決の能力を備え、専門的研究を進める人材を養成する。そうした人材養成のために、本専攻では、所定の単位要件を満たし、かつ修士論文の審査又は博士論文研究基礎力審査に合格した者で、人文学及びその関連分野も含む複合的領域に関して、学際的・総合的研究を進め、多様な知識と人文学全般及び社会科学、自然科学にも渉る見識を身につけた者に修士（学術）を授与する。	人文学専攻は、人間科学、歴史学、言語・文学、文化資源学の4コースを置き、コース内の専門を深める17専門深化型プログラム、専門を横断する5学際総合型プログラム及び公認心理師養成プログラムを提供する。ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、どのプログラムにおいても、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせ教育課程を編成し、ナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。専門基礎科目の履修によって基礎的学力を確保し、専門応用科目の履修によって問題解決能力を高めて、大学院GS基礎科目、専攻共通科目、他専攻開講科目で研究の視野を広げ、研究者や各種職業人、公認心理師としての社会的要請に応えられる人材の養成を目指している。	人文学専攻は、「人間」「社会」「環境」という多分野横断的な領域で活躍できる創造性豊かな人材の養成をめざしている。したがって、それぞれの学問分野における高い専門的能力を有するだけでなく、それを基礎に、学際性・総合性を生かした視点から先端的な研究をさらに進めようとする学生を求めている。
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
（1）課題探究力と創造性、柔軟性 人間行動、歴史学、文学、言語を対象とした人文学の諸領域に関して、専門的研究を進め、幅広い視野から“人間”に関する様々な問題に創造的かつ柔軟に取り組むことができる。 （2）高度な専門知識と社会的応用性 多様な知識と人文学全般及び社会科学、自然科学にも渉る見識を身につけるとともに、それを応用して地域社会や国際社会における多様な課題の具体的解決に取り組むことができる。 （3）情報収集・分析と論理的思考力、自己表現力 文献、資料、史料を含む多様な情報を適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理的思考力、文章作成や口頭発表の能力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。 （4）他者理解と外国語運用能力 異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する深い理解と共感力を有しており、外国語を用いて他者とも円滑に意思の疎通を図ることができる。	1. 教育内容 （1）課題探究力と創造性、柔軟性 人間行動、社会現象、言語、歴史等に関する探求を通して、幅広い視野から“人間”に関する様々な問題に創造的かつ柔軟に取り組むことができる能力を涵養するため、大学院GS基礎科目、他専攻開講科目、副専攻を設ける。 （2）高度な専門知識と社会的応用性 各プログラムの専門的な学問内容と固有の研究方法を理解・修得し、それを地域社会や国際社会における多様な課題の解決に応用する能力を身につけるため、専門基礎科目、専門応用科目、専攻共通科目、インターンシップを提供する。 （3）情報収集・分析と論理的思考力、自己表現力 多様な情報を主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理的思考力、文章作成や口頭発表の能力で自己を説得的かつ的確に表現することができる人材を育成するため、専門基礎科目、専門応用科目を開講し、研究カンファレンスでの研究発表を義務づける。 （4）他者理解と外国語運用能力 他者の多様な価値観や見解に対して理解と共感力を有し、外国語を用いて他者とも円滑に意思の疎通を図ることができる人材を育成するために、専門基礎科目、専門応用科目を設置し、英語検定試験を受験する制度を設け、E-learning等による英語学修支援を行う。 2. 教育方法 教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施する。大学院GS基礎科目、専攻共通科目、専門基礎科目、専門応用科目、他専攻開講科目の5つの区分から所定の単位数を修得することで学生の視野を広げ、研究カンファレンスや英語検定試験、インターンシップの参加等によって学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい能力を身につけることができるよう工夫している。公認心理師養成プログラムにおいては、心理的支援の専門家となるために心理面接・心理的アセスメント・多職種連携などに関するトレーニングを行うとともに複数の臨床現場で実習を行う。	人文学専攻は、人間科学、歴史学、言語・文学、文化資源学に関する特定領域又は横断的新領域について、（1）基礎知識と基礎学力を有し、（2）新しい問題の発見と解決に必要な思考力・判断力・表現力等を持つ、（3）主体的にかつ周囲と協働して学ぶ学生を求める。入学選抜試験では、専門科目の筆記試験で主に（1）と（2）を、口述試験で主に（2）と（3）を、また、筆記試験の外国語科目又は専門科目の中で外国語文献の読解能力（一部のプログラムを除く）を評価する。研究者を目指す学生だけでなく、様々な分野での専門的職業人を目指す学生、留学生や社会人を積極的に受け入れる。
【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】	【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】
（1）カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、修得単位数、英語検定試験の得点等から、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を総合的に測定・評価する。学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、学期末試験、レポート、演習の発表点等から判定する。 （2）修士論文の評価は口頭試問によって行い、博士論文研究基礎力審査（QE）は筆記試験及び口頭試問によって行う。	入学を志す学生は、志望する専攻プログラム（専門分野）において学ぶ専門的知識の理解に必要な当該分野の基礎知識、および専門的研究を進めるために必要な基礎的技術を身につけていることが求められる。一般にそれは、志望する研究分野に関する学士課程レベルの専門知識、関連知識、研究技術である。公認心理師養成プログラムに入学する学生は、公認心理師法第1条の2に定める大学における公認心理師となるために必要な科目を履修し、その単位を修得済（見込み含む）であることを前提とする。	